

令和6年度栗東市公共下水道事業報告書

1. 概況

(1) 総括事項

本市公共下水道事業は、公衆衛生の向上、生活環境の改善、公共用水域の水質保全のため、市民の暮らしを支える基幹施設として公共下水道の普及に取り組んでまいりました。

本年度末における処理区域内人口は70,174人（前年度比86人 0.1%増）、普及率は99.9%（0.2%増）となり、污水管の面整備は概成するまでに至りました。

一方で、昭和57年4月の供用開始から40年以上が経過し、今後は管渠の老朽化・耐震化対策が重点施策となることから、ストックマネジメント計画に基づき幹線管渠や緊急輸送路、避難所経路等について調査・診断を実施し、管渠の老朽化状況の把握を進めています。

また、雨水浸水対策については、雨水幹線の整備を着実に実施しています。

本年度の年間有収水量は、節水機器の普及等により前年度を下回りましたが、下水道使用料は事業所等による特定排水量が増加したことにより、前年度を上回りました。

しかしながら、今後、ますますの改築更新費用、大規模災害に備えた耐震化費用が必要となることが見込まれることから、厳しい経営状況が続くものと考えられ、投資と財政の両面から健全経営に向けた取り組みを計画的に実施していきます。

《 業務状況 》

処理区域内水洗化人口は、69,469人で前年比103人増（0.1%増）、水洗化率は99.0%（同率）となりました。有収水量については8,899,574m³で前年比55,019m³減（0.6%減）、有収率は0.7ポイント減の89.3%となりました。

なお、有収水量1m³当たりの使用料単価は125.51円で、同汚水処理原価は126.64円となり、汚水処理原価が使用料単価を1.13円上回る状況となりました。

《 事業収支 》

収益的収支については、下水道事業収益1,711,169,366円に対し、下水道事業費用1,504,166,604円となり、207,002,762円の当年度純利益を計上しました。

一方、資本的収支については、収入額606,699,810円に対し、支出額は1,390,559,049円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額783,859,239円については、減債積立金140,000,000円、過年度分損益勘定留保資金172,799,452円、当年度分損益勘定留保資金449,545,694円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額21,514,093円で補填しました。

《 建設改良事業 》

下水道（汚水）事業については、市道路事業に合わせ、縫、上鈎、坊袋地先において下水道管の布設工事を実施しました。また、栗東市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、川辺、上鈎、小柿、縫、苅原地先においてマンホール蓋の更新工事、下戸山、上砥山、御園、小野、六地蔵地先において既設下水道管内のテレビカメラ調査を実施しました。

下水道（雨水）事業については、水防法により指定が義務付けられた雨水出水浸水想定区域図の作成を行いました。